



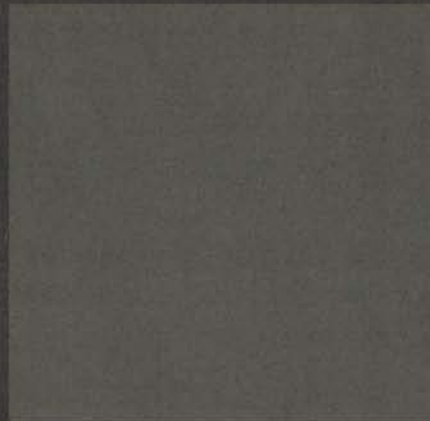
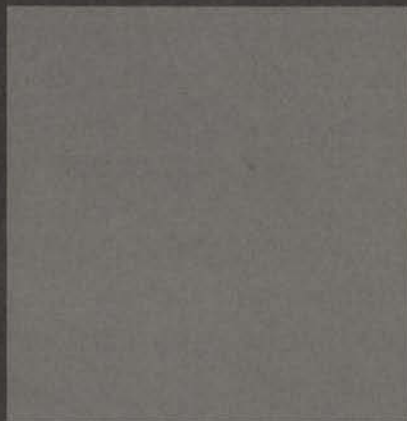
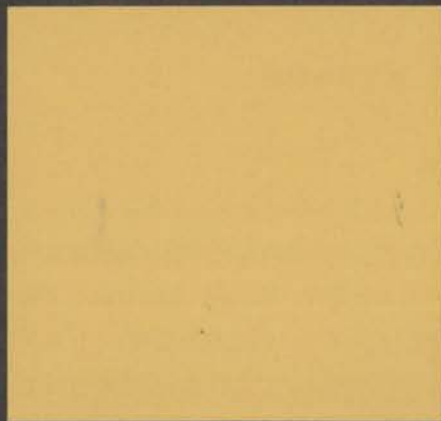
アマチュアオーケストラ

新交響楽団第229回演奏会

The New Symphony Orchestra - 229th Concert

指揮：湯浅 卓雄

YUASA Takuo, conductor



ショスタコーヴィチ 祝典序曲

Dmitrii SHOSTAKOVICH (1906-1975) : Festive Overture in A major, Op.96, 1947

橋本 國彦 交響曲第2番 へ長調

HASHIMOTO Kuniyuki (1904-1949) : Symphony No. 2 in F major, 1947

ショスタコーヴィチ 交響曲第10番 小短調

Dmitrii SHOSTAKOVICH (1906-1975) : Symphony No. 10 in e minor, Op. 93, 1953

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

2015年4月19日(日) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演 13:00 開場

Sunday, April 19, 2015, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席：¥3,000 A席：¥2,500 B席：¥1,500 (全席指定)

88ペアチケット(お二人様で合計88歳以上のお客様は合計金額から1,000円を割り引きいたします。下記コンサートイメージのみ取り扱い)

チケットのお申し込み・お問い合わせ：コンサートイメージ03(3235)3777 *10:00~18:00(日曜・祝日を除く)

チケットのお申し込み：チケットぴあ：0570(02)9999 <http://t.pia.jp/>

東京芸術劇場ボックスオフィス：0570(010)296 *10:00~19:00(休館日を除く)

(PC) <http://www.geigeki.jp/t/> (携帯) <http://www.geigeki/i/t/>

0570で始まる電話番号は一部携帯電話・PHS・IP電話では受付ができません。

*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください(予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyo.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

時代に翻弄された2人の作曲家

今回の演奏会では、戦時中に活躍した作曲家橋本國彦と、同じ頃ソヴィエトの国民的作曲家であったショスタコーヴィチの作品を演奏します。東京音楽学校の作曲科教授として時局に応じた音楽を作曲せざるを得なかった橋本と、スターリンの元で体制が求める音楽を書くことを求められたショスタコーヴィチ。2人の天才音楽家は、国は異なれども同じような境遇だったかもしれません。その2人が束縛から解放され、自らを取り戻して書いた曲をプログラミングしました。

1996年の新交響楽団創立40周年記念「日本の交響作品展」のメインプログラムに据えたのが橋本の交響曲第1番でした。「皇紀2600年」(昭和15年)記念のための曲で戦時色の濃いものでしたが、魅力的で心に残る傑作でしたので、いつか第2番も取り上げたいという思いがありました。

橋本國彦 交響曲第2番～平和への願い

橋本國彦(1904-49)は、東京音楽学校(現在の東京藝術大学)に当時作曲科がなくヴァイオリン専攻で入学、1937-39年に欧米に留学し特にウィーンで作曲を学びました。帰国後は母校の作曲科教授となり、諸団体の要請に応じて「時局音楽」を数多く作曲しました。橋本自身は政治色の強い人ではありませんでしたが、官学の作曲科主任教授としての役割をはたす必要がありました。終戦後に戦争協力の責任を取り辞職、間もなく胃癌のために世を去ります。

交響曲第2番は、新憲法制定を祝う祝賀会のために委嘱され1947年に作曲・初演されましたが、構想は戦時中からあったようです。歌曲を得意とした橋本らしく美しい旋律に溢れた叙情的な曲で、自筆譜には副題に「平和の鐘」と書かれた跡があり、最後に鐘が希望に満ちて鳴り響きます。

ショスタコーヴィチ 交響曲第10番～自由への突破口

ショスタコーヴィチ(1906-75)は元々前衛的な曲を書いていましたが、粛清を恐れて交響曲第4番を封印し第5番からは社会主義リアリズムに転ずるも、第9番が短く軽妙だったためスターリンに激怒され、プロパガンダ的な作品を作り当局にある意味「迎合」していました。

交響曲第10番は、1953年にスターリンが死んだ直後に発表され、第9番の作曲から8年も経過していました。15曲ある彼の交響曲の中で最も美しい曲と言われており、人間的な感情と情熱を描きたかったと作曲者自身が述べていますが、自分のイニシャル(DSCH)音型や「スターリンの肖像」など、いろいろな意味が込められているようです。

祝典序曲は、交響曲第10番の作られた翌年の革命記念日のために委嘱されました。明るく快活な元気の出る曲で、最後は金管楽器のバンドが加わり華やかに幕を閉じます。記念というよりは、むしろ「スターリンからの解放」を喜んでいたのかもしれない。

どうぞお楽しみに!(H.O.)

今後の演奏会予定

<第230回演奏会>

2015年7月26日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 矢崎彦太郎 ソプラノ コロンえりか

曲目 ラヴェル/古風なメヌエット、「ダフニスとクロエ」第2組曲、マーラー/交響曲第4番

<第231回演奏会>

2015年10月12日(月祝)14時 東京芸術劇場

指揮 寺岡清高

<第232回演奏会>

2016年1月24日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 湯浅卓雄

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・故芥川也寸志の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展(1976年にサントリー音楽賞を受賞)、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ(故山田一雄指揮、1979~90)、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏(故石井眞木指揮、1993)、伊福部昭米寿記念演奏会(2002)、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演(高関健指揮、2004)、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演(飯守泰次郎指揮、2006)など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ~良いお席を安く~

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券(どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能)を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座:00130-0-28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail:shinky@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時~9時、東京芸術劇場(池袋)、クラシック・スペース☆100(大久保)他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、キッズルームをご利用いただけます。お問い合わせ:東京芸術劇場 電話03-5391-2111